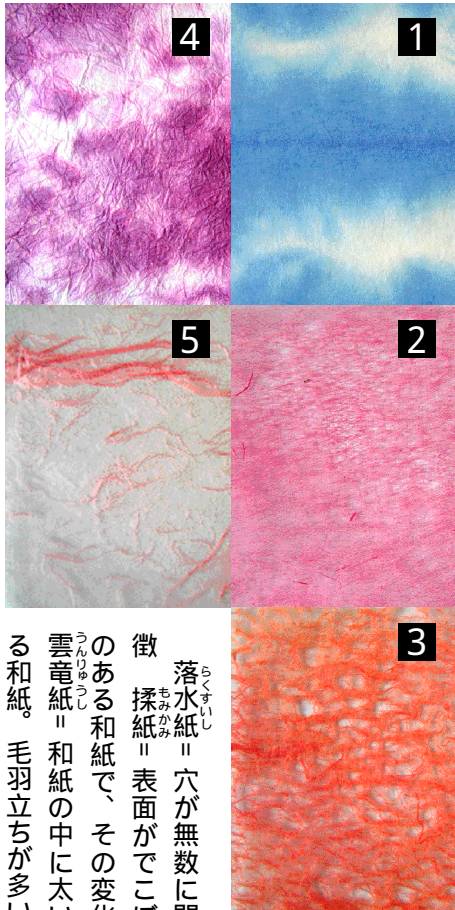


ちぎり絵に使われる
和紙の種類を一部紹介



落水紙らくすいし 〓 穴が無数に開いているのが特徴
揉紙もみみ 〓 表面がでこぼこしている変化のある和紙で、その変化がツヤと調和
雲竜紙うんりゅうし 〓 和紙の中に太い繊維が入っている和紙。毛羽立ちが多いのが特徴

板締紙いたじめし 〓 ちぎりがやすく、濃淡、立体感を表すのに最適 極薄紙 〓 透かして見えるほど薄い和紙

戦っていききたいです」と抱負も語ってくれました。
一つの作品を作り上げるにも、どのような厚さの紙が最も適しているのか、どの色が実物に近いのかなどとても研究熱心。イメージに合う和紙がなければ、和紙屋に相談し、特別な色を作ってもらったりなど、こだわりを見せています。

人と人の

出合いを大切に

滋子さんは、鳥取県内はもとより東京、名古屋、大阪、広島、岡山、九州など全国各地の教室で指導しています。

「人と人との出合いを大切にしたい。教室で生徒さんとかうのが楽しみ」と声がかかればどこにでも行ってしまおうです。
老人ホームなどの施設でちぎり絵教室を開くと、お年寄りや体の不自由な方が、目を輝かせちぎり絵に夢中になる。ちぎり絵が、手だけでなく心のリハビリにもなっています。「これをしていると嫌なことを忘れられる」「ちぎり絵に没頭して、時間が流れるのを忘れる」と生徒の声と笑顔を思い出すと移動時間も苦にならないと言われます。

多くの人に

楽しみを伝えたい

今後は「地元で家元の遺作展を開き、地域の人に作品を紹介したい」「ちぎり絵という

ものを多くの人に知ってもらい和紙に親しんでもらいたい。暮らしのゆとりのきつかけになれば」と話されました。

平野滋子さんを講師に迎え、ちぎり絵教室が開かれます。

【とき】

6月2日(月)

午前10時から12時まで

【ところ】

根雨宿一番館

【材料代】

1000円

【申し込み期限】

5月26日(月)まで

【申し込み・問い合わせ先】

根雨宿一番館またはまちづ

くり日野(電話72 0280)



作品名「創造」

平野滋子さん作



作品名「住みなれた」